Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2021, Vol.30, 183-190

報告

生活を豊かにしていく生活科授業の創造
－牛乳パックを使った手すきハガキ作りの実践－

寳 地 拓 也［鹿児島大学教育学部附属小学校］

Creating a life science class that enriches students' life: Practice making handmade postcards using milk cartons

HOUCHI Takuya

キーワード：生活を豊かにしていく、生活に生かす、試行錯誤、自分の取組のよさ、環境

1. はじめに

私たちの暮らしている地球は，経済的に豊かになり，身の回りには物が溢れ，生活するうえで必要なものは簡単に手に入る時代となっているが，様々な環境問題を抱えている。小学校における環境教育について国立教育政策研究所（2007）は，小学校段階は，あらゆる事物・現象に対して豊かに感受する時期でもあるので，活動や体験を重視し，自然や社会の中での体験を通じて，児童が様々な事物・現象に気付いたり，その大切さ等を感じとったり，身近な問題から環境と自分との関係を考えたりすることの重要性を述べている。

小学校低学年期は，子どもが体全体で身近な環境に直接働きかける創造的な行為が行われることを重視されているが，近年，子どもたちの直接体験の不足も課題となっている。そのような中，本学級（２年生）の子どもたちは５月に，給食や日々の生活で利用する牛乳パックを使って紙とんぼを作って遊ぶ学習をしており，不要なもの（飲み終わった牛乳パック）を工夫しておもちゃにするといった経験から『いらなくなったもので，また楽しく遊んでみたい。』という思いや願いをもっている。そのため，給食のデザートの容器や家庭で不要になったものを保管し，必要な時にその材料を使って，学習したり，友達と交流しながら遊んだりするようになってきている。さらに，自分たちの行っている行為は，「エコだよ。」「リサイクルだね。」といった言葉で表現され，環境（地球）のためになる行為であるという認識をもち始めている。しかし，牛乳パック等の不要になったものを別のものに「再利用」をする経験は積み重ねてきているが，同じ環境のためになる行為である「再生利用」（使用済み製品を利用しやすいように処理し，新しい製品の原材料として使う）といった経験はほとんどなかった。そこで，環境（地球）のためになる行為に興味をもち始めているこの時期（11 月）に，普段の生活ではなかなか経験することができない再生利用を体験することは，子どもたちにとって環境に対する感受性を育み，生活を豊かにしていくことにつながると考えた。

2. 生活を豊かにしていく生活科授業の考え方

2. 1. 生活を豊かにしていく生活科授業とは

生活科の学習を通して，目指していくものは，子ども自ら自立し生活を豊かにすることである。生活を豊かにしていくとは，子どもが，自分の成長とともに周囲とのかかわりやその多様性が増す

ことであり，一つ一つのかかわりが深まっていく中で，これまでの学びを生かしながら，将来の自立に向けて生活科の学びを実生活に生かし，よりよい生活を創造していくことである。それは，まだできないことやしたことがないことに，思いや願いをもって自ら取り組み，自分でできることが増えたり，活動の範囲が広がったりして，自分自身が成長することである。つまり，生活を豊かにしていく生活科の授業とは，自分の思いや願いをもち，その思いや願いの実現に向けて具体的な活動や体験を行い，試行錯誤する中で感じたり，考えたりしたことを表現したり，行為していくことによって，自分のよさに気付くことができる授業である。

これらの学びが連続的・発展的に繰り返されることで，自分自身や身近な人々，社会及び自然が一層大切な存在になって，日々の生活が楽しく充実し，夢や希望が膨らみ，子ども自身が生活を豊かにしていくことだと考える。

2. 2. 生活を豊かにしていく授業の視点

生活を豊かにしていくためには，学習に対する思いや願いが子どもの生活から始まり，これまでの経験を生かしながら試行錯誤する中で，自分のよさに気付くことが大切である。また，学んだことを自分自身の生活の中で生かすことができることも大切である。これらのことを踏まえ，以下の視点で授業を考えていくこととする。

ア　子どもの生活から学習を出発させ，子どもの生活に生かすことができる指導計画

子どもの生活から始まり，学んだことを子どもの生活に生かすことができるようにするためには，対象に対する思いや願いを自分とのかかわりからもつことができ，思いや願いを達成していく中で，対象の特性を把握し，そのよさや可能性を生かすことができる場面を設定することが大切である。具体的には，これまでの経験から生まれる思いや願いを基に単元をスタートしたり，学んだことやできるようになったことを生かして，『今度は，〇〇をやってみよう。』『これで〇〇ができるよ。』と思いや願いが連続・発展したりすることである。

イ　思いや願いを基に自分なりに試行錯誤を繰り返すことができる働きかけ

思いや願いを基に試行錯誤を繰り返すためには，思いや願いの達成にむけて，予想したことを試したり，何度も挑戦したりすることができるといった，対象に繰り返しかかわることができる働きかけが大切である。また，他者と比べることで，違うところや似ているところを見付け，それらを伝え合うことで，互いのよさやそれぞれの気付きを共鳴し，自分にとって新たな活動を見いだすことができる働きかけが大切である。

ウ　対象への認識や自分の取組のよさを実感することができる振り返り

気付きの質を高めていくためには，自分自身の活動を振り返り，無自覚だった気付きが自覚されたり，個別の気付きが関連付けられたり，自分自身についての気付きが自覚されることが大切である。具体的には，自分自身の活動を振り返る中で，心に残ったことを言葉や絵などで表現することで，無自覚だった気付きが明確になったり，ぞれぞれの気付きが関連付けられたりすることである。また，自分の頑張りや工夫を捉える中で，自分自身の取組のよさを実感することができる振り返りの設定が大切である。

3. 単元「ハガキをつくろう」の実践について

3. 1 ねらい

本単元のねらいは，牛乳パックを使って手すきのハガキを作る活動を通して，生活の中で不要になったものでも工夫することによって，自分の生活の役に立ったり，生活を楽しくしたりするものに変えることができるよさや楽しさを味わうことである。そのために，試行錯誤しながら手すきのハガキを作る活動に取り組む中で，不要になった牛乳パックが，新たなもの（再生紙）へと変化する不思議さや面白さ，工夫しながら手すきのハガキを作ることができた自分の取組のよさに気付くことが大切である。そして，自分の生活をもっと楽しく豊かなものにしていこうとする意欲を高めることができるようにすることである。

3. 2 単元の目標

(1) 不要になった牛乳パックが再生紙に生まれ変わる不思議さや面白さ，自分の取組のよさに気付くとともに，道具の使い方や準備，後始末の仕方等の習慣・技能を身に付けることができる。

(2) これまでの経験や友達との交流を基に，試行錯誤して手すきのハガキを作るとともに，手すきのハガキを作りながら気付いたことや思ったことを絵や言葉で伝えることができる。

(3) 『牛乳パックでハガキを作りたい。』という思いや願いを基に，自分や友達の取組のよさを認め合いながら，進んで手すきのハガキを作る活動に取り組み，不要なものも工夫しながら自分の生活に生かしていこうとする意欲を高めることができる。

3. 3 指導計画

単元と単元をつなぐ指導計画は，以下のようになる。（表１）

表１　単元と単元をつなぐ指導計画

過程	思いの連続と気付きの様相 □…前後の単元名 ▭…活動名 ┆…子どもの思いや願い	主な学習活動
意欲をもつ	とべとべ紙とんぼ（これまでの関連単元）	牛乳パックで紙とんぼを作って遊ぶ。
	・ 牛乳パックで紙とんぼを作って楽しかったな。 ・ 牛乳パックで他にも何かできないかな。	牛乳パックを使って手すきの紙を作ることができることを知り，紙すきを楽しむ。また，教師が事前に作っておいた手すきのハガキを見て，今後の学習の見通しをもつ。
	手すきのかみ作りを　たいけんしよう　（1時間）	
活動する	・ 紙すきって楽しい。本当に牛乳パックが紙になるなんてビックリした。 ・ 給食の牛乳パックでハガキを作ってみたい。	事前に準備しておいた牛乳パックを使って，牛乳パックの表面をはがしたり，牛乳パックを細かくしたりする。さらに，細かくした牛乳パックを使って，前時の経験や友達との交流を生かし，試行錯誤しながら手すきのハガキを作る活動を行い，形や色，丈夫さなど，自分なりに工夫してハガキを作る。
	ハガキをつくろう　（２時間）	
	・ 水につけるときれいに剥がれるね ・ 牛乳パックを細かくしてみよう。 ・ 絵の具で色をつけることができたよ。 ・ 窓に貼って，押したら凸凹ならないよ。	
振り返る・生かす	つくったハガキで手紙をかこう　（1時間）	自分の手作りハガキを使って，文字や絵をかいたりして自由に手紙をかく。また，これまでの活動を振り返り，気付いたことや楽しかったこと，自分の頑張りなどを絵や言葉で表現する。
	・ 牛乳パックでこんなにいいものができるんだ。 ・ このハガキで家族に手紙をかこう。 ・ 頑張ってよかったな。この手紙が届いたとき喜んでくれるかな。	
	思いをとどけよう（次単元）	年賀状をかいて，身近な人に思いを届ける。

3．4 本単元における生活を豊かにしていく授業の視点

ア　子どもの生活から学習を出発させ，子どもの生活に生かすことができる指導計画

表１のように，５月に生活科の学習で行った，牛乳パックを使って紙とんぼを作って遊んだ経験を想起させ，『牛乳パックでまた面白いことをしたい。』という思いや願いから本単元をスタートする。単元終末では，できた手すきのハガキで手紙をかく活動を設定し，思いを込めた手紙のよさを知ることで，次単元の年賀状をかく「思いをとどけよう」の単元へと発展する。

イ　思いや願いを基に自分なりに試行錯誤を繰り返すことができる働きかけ

子どもの思いや願い，動線を想定しながら必要な材料を置くなどの環境構成を行い，試行錯誤しながら繰り返し手すきのハガキ作りができるような場を設定する。また，形や紙の厚さ，色，模様等の違いから新たな活動を見いだすことができるようにするために，互いのハガキを比べることができる場の設定を行う。

ウ　対象への認識や自分の取組のよさを実感することができる振り返り

これまでの活動を振り返り，対象を通した活動で心に残ったことや自分が頑張ったこと，工夫したことを絵や言葉で表現する活動を設定し，自分の頑張りや工夫によって，相手を喜ばせることができた自分の取組のよさを実感することができるようにする。

3．5 実践の実際

本単元の実践の実際をまとめると，以下の表２，表３，表４のようになる。

表２　学習過程ごとにまとめた子どもの姿と教師の働きかけ①

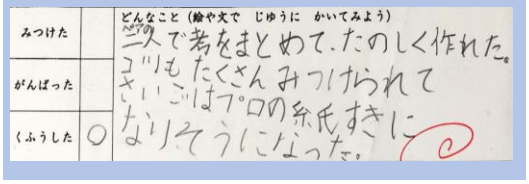
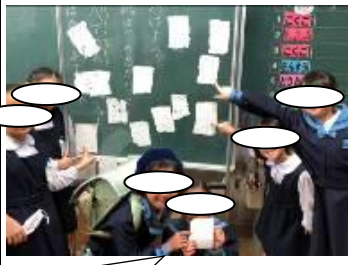
学習過程	主な学習活動と実際の子どもの姿	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	これまでの学習「とべとべ紙とんぼ」を想起し，活動への意欲を高める。 １　手すきのかみ作りを　たいけん　しよう ドロドロで面白い。このドロドロした白いのが，牛乳パックなんてビックリしたね。 何度もやっているうちに，白いところがどんどん濃くなってきたよ。何回ぐらいするといいのかな。 初めて手すきの紙作りをする様子 友達と役割を決めて，やってみると，破けずに作ることができたよ。 これだけで，本当に紙ができるのかな。でも協力したからここまでできたね。 友達と相談したり，協力したり試行錯誤する様子	○　前単元で行った紙とんぼを想起させた後，教師が作っておいた手すきのハガキを見せ，紙とんぼと同じように牛乳パックを使って紙を作ることができることを伝えることで，ハガキづくりへの意欲を高めた。そして，あらかじめ教師が用意しておいた材料（牛乳パックを水につけ，ラミネート部分をはがし，ミキサーで細かくしたもの）を使って手すきの紙作りを楽しむことができるようにした。 ア ○　手すきの紙作りでは，活動を通して対象への認識，自分のよさや可能性を表現することができるようにするために，ワークシートを使って，気付いたことを表現することができるようにした。 ウ 対象への認識や自分のよさを表現できるカード  みつけた がんばった くふうした ○ どんなこと（絵や文で　じゅうに　かいてみよう） 二人で考をまとめて，たのしく作れた。 ゴリもたくさんみつけられて さいごはプロの紙すきになりそうになった。

表３　学習過程ごとにまとめた子どもの姿と教師の働きかけ②

翌朝



すごーい！本当に紙になっていたよ。嬉しいな。

友達と形や厚さが違うね。今後は，自分一人で作りたい。

翌朝，登校するなり，昨日の手すきの紙がどうなっているか確認し，協力して作った友達と紙になっている喜びを共有することができた。一方，『自分のハガキを作ってみたい。』『もっと上手に作ってみたい。』という思いや願いも高まっていった。

活動する

２　ハガキを　つくろう

この前みたいに紙すきができる場所をつくろう。ブルーシートを広げると教室が濡れないね。あと，一人ずつ作るからボードを２つ用意するといいね。

前時の経験を生かして，自分たちで場作りをする様子

牛乳パックは２日間水で濡らしていると剥がしやすいよ。

牛乳パックのラミネートはがしのコツがわかった。みんなに名人って言われた。

牛乳パックの特徴に気付いている様子

失敗しても何度でもやり直しができるね。友達のやり方を見て真似すると，この前よりきれいにできそう。

友達が，落ち葉を入れて作っていたから，僕もやってみよう。

自分なりに試行錯誤しながらつくる様子

今日の大発見を書きたいな。

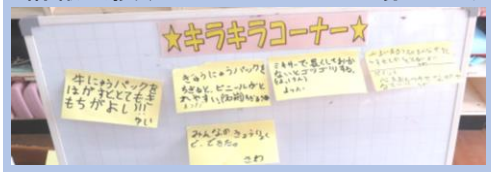
みんな頑張って，自分だけのハガキが出来そう。乾くのが楽しみ。

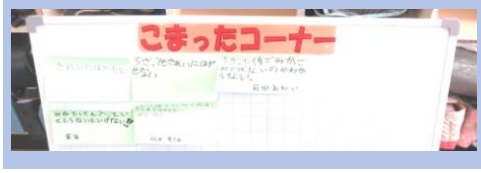
活動後の振り返りの様子

○　作りたいハガキの形や色，丈夫さなどそれぞれの思いや願いに応じてハガキ作りに取り組むことができるようにするために，同じ思いや願いの子ども同士が出会い，一緒に活動することができる場をコーナー毎に設定した。その際，前時の経験を生かして，動線を踏まえた場づくりができるようにするために，「どこに○○があるといいかな。」と問いかけ，子どもとともに動線を踏まえた道具や材料の配置を考えた。 イ

○　気付いたこと情報交換することができるようにするために，紹介したいことを書くことができる情報コーナーを設け，気付いたことを共有できるようにした。 イ

情報交換することができる場づくり





○　友達と形や紙の厚さ，色，模様等の違いから新たな活動を見いだすことができるようにするために，友達と比べることができるボードを用意したり，「友達はどんな工夫をしているかな。」と作り方の違いを問いかけたりした。 イ

乾かしながら友達と比べることができるボード

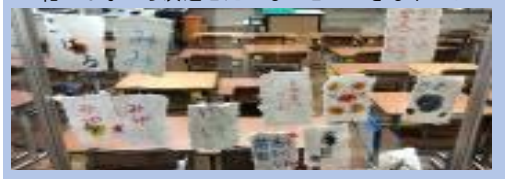
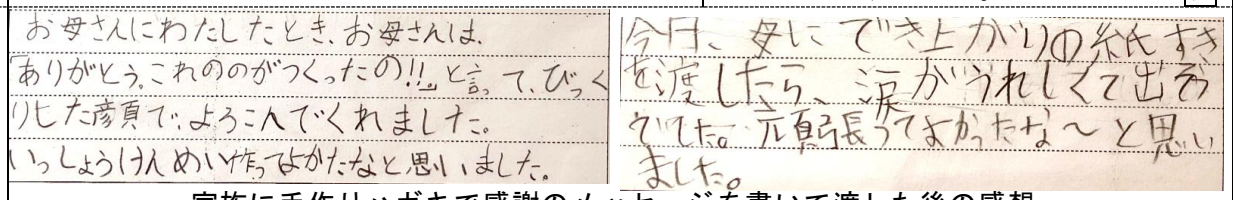


表４　学習過程ごとにまとめた子どもの姿と教師の働きかけ③

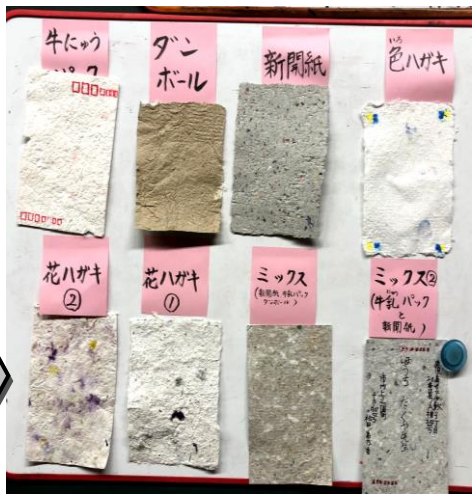
<table>
<tr><td rowspan="2">振り返る・生かす</td><td>３　作ったハガキで手紙をかこう
自分だけの手すきハガキができて嬉しいな。
感謝の気持ちを書いて家族に渡したら驚くかな。

作ったハガキで手紙をかく様子</td><td>○　相手を喜ばせることができた自分のよさや可能性といった自分の成長を自覚することができるようにするために，手作りハガキに手紙を書いて，相手に渡すことができる活動を設定した。 ア ウ
○　手すきのハガキ作りのよさや自分の成長を自覚することができるようにするために，これまでの楽しかったことや自分自身の取組についてワークシートを使って振り返ることができるようにした。 ウ</td></tr>
<tr><td>翌日</td><td> 
お母さんにわたしたとき、お母さんは、「ありがとう。これののがつくったの!!」と言って、びっくりした様子でよろこんでくれました。いっしょうけんめいつくってよかったなと思いました。
今日、母にでき上がりの紙すきを渡したら、涙がうれしくて出ていた。頑張ってよかったな～と思いました。
家族に手作りハガキで感謝のメッセージを書いて渡した後の感想
思いを込めて手紙を書いた相手からの反応で，自分の頑張りをさらに実感することができた。また，『もっと色々な人を喜ばせいたい。』という思いも高まっていた。</td><td></td></tr>
</table>

3．6 本単元の発展（学んだことを基に活動が連続・発展）

本学級の子どもたちは，本単元後も，ハガキ作り（手すきの紙作り）への関心が高く，活動が継続して行われた。その様子を整理すると，以下の図１，図２，図３のようになる。

<table>
<tr><td colspan="2">思いや願いを基に自分なりに試行錯誤を繰り返す（主に視点イとのつながり）</td></tr>
<tr><td>牛乳パック以外でも，身の回りにある不要になったもので手すきの紙ができるのか問いかけたところ，不要になった新聞紙や段ボール等で試したり，花摘みをした花を使って模様をつけたり，自分たちなりに試行錯誤しながら活動する姿が見られた。また，豊かな発想から，折り紙やちり紙で紙作りをする子どもたちがいたが，不要になったもので作るほうが価値があるという一人の子どもの発言をきっかけに，自然と学級全体で「不要になったもので作る」という考えが定着していき，活動が継続された。</td><td>牛乳パック以外でもできるかな。段ボールや新聞紙でも試してみたいな。

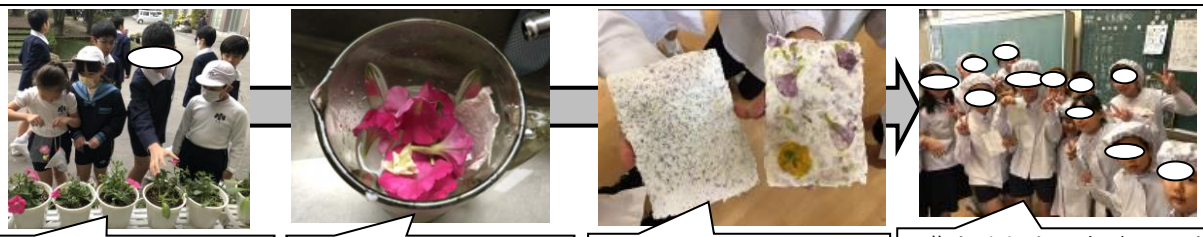
 

できたハガキをボードに掲示した様子</td></tr>
</table>

図１　新たな活動を見いだしていく姿

子どもの生活に生かされ，自分のよさに気付く（主に視点ア，ウとのつながり）

本単元の学びを子どもたちの実生活に生かすことができるように，教室の一角にコーナーを設け，いつでも手すきの紙作りができる場を設けたところ，就業前や休み時間等，多くの子どもたちが積極的に紙作りに取り組んでいた。そして，手作りの紙は相手を喜ばせることができるという経験から，お世話になっている６年生や交流のある兄弟学級の１年生等に手作りの紙にメッセージを書いてプレゼントする姿が見られた。そして，相手の反応やお礼から，自分のとった行動が，相手を喜ばせることができたことを実感し，自分の取組のよさに気付くことができた。



６年生が花摘みをした花をもらう様子

もらった花でハガキ作りに挑戦する様子

花の入ったオリジナルハガキが完成した様子

花をくれた６年生にできたハガキをプレゼントする様子

図２　子どもの生活に生かされ，自分の取組のよさに気付く様子

次単元「思いをとどけよう」（年賀状をかいて送る）への発展（主に視点アとのつながり）

次単元の自分にとって身近な人に年賀状をかいて，思いを届ける活動では，『特別な人に手作りのハガキをかいて喜ばせたい。』という思いや願いを基に，大切にとっておいた手すきの紙に丁寧に字や絵をかいたり，色を塗ったりと，相手のことを考えながら思いを込めて年賀状を作成していた。その際，子どもたちは，『手すきの紙をどうしたら，郵便ハガキ（年賀状）として送ることができるのか。』という課題に直面した。すると，図書室でハガキや年賀状のことを調べたり，郵便局へ電話をしたりして，「ハガキの大きさ（縦・横）」「ハガキの重さ」「紙の厚さ」「ポストへの投函」など気になることを確認し，その条件に合うように手すきの紙を切ったり，重さを調べたりしながら年賀状に変え，無事に出すことができた。

図書室の本でハガキについて調べる様子

既定のサイズに切って調整をする様子

実際に子どもたちがかいたハガキの様子（真ん中は新聞紙ハガキ）

ポストへ祈りながら投函する様子

図３　次単元「思いをとどけよう」の様子

3．4 実践の考察

子どもたちの生活の中から生まれ，思いや願いが連続・発展する指導計画を設定したことで，学んだことを生かしながら，自分たちの実生活でもその学びを生かしていく姿が見られた。また，教師の意図的な環境構成は，子どもたちが何度も試行錯誤したり，友達と情報交換したりしながら一人一人が自分の思いや願いに応じて工夫し，活動の面白さや不思議さに気付くことにつながった。さらに，本単元を通して，頑張って作った手すきのハガキが，自分の身近な人を喜ばせることができることを実感できたことで，そのハガキを作ることのできた自分の取組のよさに気付き，写真１のように，生活を楽しく豊かにしていこうと意欲を高めることができた。

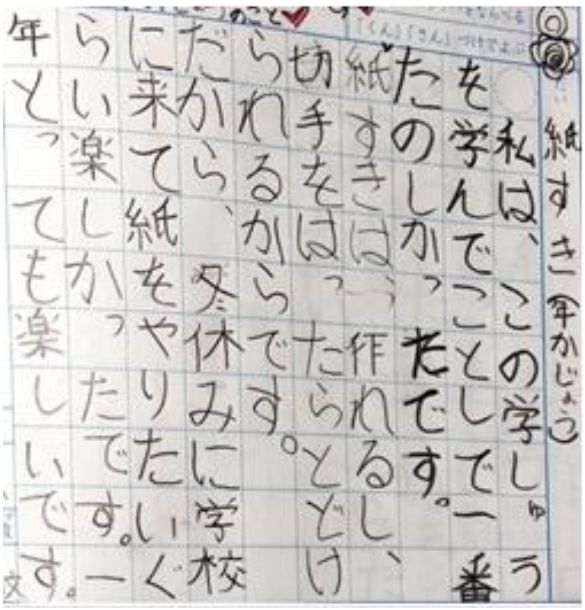


写真１　今後の生活に意欲を高める子どもの日記

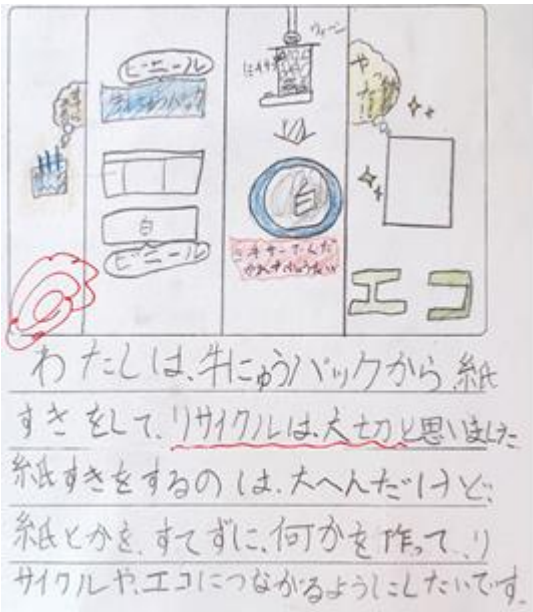


写真２　単元後の振り返りのカード

6. おわりに

本実践では，５月の牛乳パックで作って遊んだ紙とんぼに続き，同じ牛乳パックを使って紙すきを行ったことから，子どもたちにとって飲んだ後はゴミとして処分していた牛乳パックに対する見方が変わり，価値のあるものへと変わっていったことで，身近にある牛乳パックが，自分の生活を豊かにするということを改めて実感することができた。

また，本単元を通して，写真２のように，身の回りにあるものを大切にしようとする意識が高まり，日々の生活で必要な道具の準備や後始末といった習慣・技能面の高まりや，環境のためになる行為を自分なりにやっていこうとする意欲を高めることができた。

本単元を実践するにあたって，教師の予想を超えて活動に没頭する子どもの姿が見られ，実態を踏まえながら，子どもたちにどんな対象と出合わせ，活動を展開するかといった「活動設定」の大切さを改めて感じることができた。

7. 付記

本報告は，鹿児島大学教育学部附属小学校（2019）研究紀要で発表した内容に基づき，生活科教育において実践を重ね，まとめたものである。

8. 文献

鹿児島大学教育学部附属小学校（2019）．新たな価値を創り出す資質・能力を育む授業の創造

国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2007）．　環境教育指導資料　［小学校編］